

**廃止措置研究・人材育成推進事業
中間評価総合所見**

研究課題名：福島第一原子力発電所構内環境評価・デブリ取出しから廃炉までを想定した地盤工学的の新技術開発と人材育成プログラム

研究代表者（研究機関名）：東畑 郁生（地盤工学会）

再委託先研究責任者（研究機関名）：小峯 秀雄（早稲田大学）

再委託先研究責任者（研究機関名）：鈴木 誠（千葉工業大学）

研究期間：平成27年度～平成31年度（5年計画）

項目	要 約
1. 研究の概要	<p>福島第一原子力発電所の廃止措置を、実効性の高い技術に基づき実現することを目指して、高放射線環境等原子力特有の条件を地盤工学に融合し、原子力発電所の現状から廃炉までの時間軸を考慮して、(i)現状から廃炉措置までの長期間の地下水環境・作業環境の状況調査と将来予測、(ii)土・地盤の放射線遮蔽性能を活用したデブリ取出し補助技術と掘削技術の適用評価、それに基づく実効性の高い数種類のデブリ処理メニューの提示、(iii)福島第一原子力発電所構内の除染廃棄物処分と原子炉建屋デコミッションングに関する実現可能な技術の開発を行う。また、これらの技術を体系化し、原子力技術者と協働できる新しい地盤工学技術者の育成プログラム「廃炉地盤工学」を構築することを目的として、以下の研究および人材育成を行う。</p> <p>1) 廃炉地盤工学を通じた人材育成プログラム 2) 超重泥水・各種覆土の放射線遮蔽性能評価 3) 地下水環境等の解析・調査技術と予測技術の高度化</p>
2. 総合評価	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px; font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div> <div> <p>研究面において、現場のニーズとシーズをマッチングさせた技術マップの開発や、超重泥水をIRID事業に提供し、採用されるなど評価ができる。</p> <p>今後、技術マップの人材育成への活用や、超重泥水の遮へい効果の検討や、フェーシング材への適用なども検討して欲しい。</p> <p>また、人材育成については、シラバスの基本構想を構築して、早稲田大学にて試すなど成果が出ているが、再委託先以外の大学への展開や、学会としてのネットワークの活用に期待したい。</p> </div> </div> <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>